



日光明峰高校 ～「日光学」を中心とした探究活動～

《特色》日光明峰高校の総合的な探究の時間は、「日光学」を中心として、SDGsに基づいた社会問題をテーマとした内容からスタートし、地域と連携しながら日光市の課題の解決を目指した探究活動につながります。これらの活動を通して、社会や地域の様々な事象を「自分ゴト」として受け止め、持続可能な社会における自らの役割を認識し、主体的に行動できる人材を育成します。

年間予定

1年 テーマ「社会と自分」

- 4月 SDGsについて学ぶ
- 5月 探究の基礎を学ぶ
- 9月 グループ別探究開始
問い作り→課題の設定
- 10月 探究計画書の作成
アクション
- 12月 まとめ・表現 (スライド、ポスター作成等)
- 2月 学年内発表、振り返り

2年 テーマ「地域と自分」

- 4月 日光の魅力調べる
- 5月 日光市職員によるガイダンス
- 6月 グループ別探究開始
興味・関心、進路からテーマの選択
- 7月 テーマに関する問いを立てる
- 8月 テーマ別フィールドワーク
- 9月 課題の設定
- 10月 アクション
- 1月 まとめ・表現 (スライド、ポスター作成等)
- 3月 成果発表会、振り返り

3年 テーマ「〇〇と自分」

- 4月 自己の進路に関する進路調査
- 9月 SDGsと自分の進路を関連付けた探究
- 12月 まとめ・表現 (スライド、ポスター作成等)
- 2月 学年内発表、振り返り

学校設定教科「地域セミナー」

point1

問いをたくさん作るワークショップを通して、課題設定のヒントを得る。

《課題設定までの流れ》

- ①SDGsの目標を1つ選択し、それに関する疑問や課題をたくさん書き出す。
- ②イメージマップやYチャートなどの思考ツールを活用して、一番気になる疑問や課題を選び掘り下げる。

《問い→課題を設定した例》

- 「SDGs 目標17パートナーシップでできることは？」
→「自分たちでSDGsを広められるか？」
- 「飢餓、貧困の解決の手段って？」 → 「食品廃棄物の実態」



point2

課題解決のために各自が具体的なアクションを起こし、情報を集め整理分析を行う。

《課題と具体的なアクションの例》

- 「貧困と教育」 → エコトレーディングの実施
- 「健康・経済とコロナウイルス」
→ 生徒、教員対象にコロナに関するアンケートの実施



point3

学校設定教科「地域セミナー」(2年2単位)における体験的な活動を通して、地域に対する理解を深め、総合的な探究の時間の充実を図る。

《具体的な内容》

- ・国際的な視点で日光を知る
「Youは何しにNIKKOへ」をテーマにニ社一寺周辺でインタビュー
- ・自然的な視点で日光を知る
中禅寺湖や田母沢御用邸などの自然散策
足尾銅山に関連した銅の生成実験
- ・歴史的な視点で日光を知る
日光の歴史や文化について学ぶ



point4

地域と連携して、各自のテーマに関係するフィールドワークを行い課題設定につなげる。

《テーマとフィールドワークの例》

- ・「外国人とのコミュニケーション」
→ 地域の外国人を招いたスポーツ大会の開催
- ・「日光の木を守り育てよう」
→ 獣害問題について調査するために地元猟師との交流
- ・「ウィズコロナ」 → 日光市役所での情報交換
- ・「地域、行政と連携し、日光明峰高校を選ばれる高校にしよう」
→ PRポスター作成のために文星芸術大学の学生との交流



主な課題研究

2年生 地域探究

- ・「地域や行政と連携し、日光明峰を選ばれる高校にしよう」
→ PRポスターの作成
- ・「日光の木を守り育てよう」
→ 日光市に改善案を提案
《提案内容》
広報活動などで若年層の猟師を増やす。
鹿、熊、猪の皮や角を販売する場所を作る。
日光市で木の駅を実施する。



3年生 SDGsと自分の進路を関連付けた探究

- ・「地域と自分」 社会科学×まちづくり×SDGs
- ・「日光と自分」 歴史×文化×巫女×SDGs



これまでの主な取組

●地域の資源、人材の活用

世界に誇る日光のフィールドにおける探究活動を実施するために、地域の資源、人材を活用する目的で、日光市役所との連携を進めた。

●職員室、校内図書館に関連書籍コーナーを設置し、探究活動やSDGsに対する理解を促進



●外部教材の活用

教員にとって、足並みを揃えた指導がしやすくなり、生徒にとって、活動のガイド役となるような外部教材を選定し、総合的な探究の時間に導入した。

これから目指す取組

●2022年度より総合的な探究の時間を

3単位から5単位に増加

2年生2単位で実施していた学校設定教科「地域セミナー」と合わせて、総合的な探究の時間を5単位で実施する。また、体験的な活動の充実を図ると共に、進路探究も含めた3年間の体系的なカリキュラムを作成する。



●評価方法の検討

先進校の取組を参考に、本校の実態に即した評価方法（ルーブリック評価、ポートフォリオ評価等）の検討を進める。

●探究の取組を進路につなげる意識を高める

探究の取組が進路に結びついた事例を生徒と教員で共有する場面を設定することで、総合的な探究の時間の取組を進路につなげる意識を高め、その後の活動に活かす。



探究活動における評価の例

●2年成果発表の参観者による評価

- ・評価の観点を明確にして、評価シートによる評価を行う。
- ・参観者は生徒(1年、2年)、教員、保護者、地域住民。



《 評価シートの例 》

テーマ1 「いざというときに地域の防災について考える」		内容		評価		
1.	発表者としての態度(立ち方、表情、言葉遣いなど)は好ましかったか	5	4	3	2	1
2.	聞き手に対して伝えたい気持ち(アイコンタクト)が見られたか	5	4	3	2	1
3.	聞きやすかったか(声量、スピード、スムーズさ)	5	4	3	2	1
4.	資料が分かりやすく、興味・関心をもてる内容だったか	5	4	3	2	1
5.	発表者の伝えたいことが伝わったか	5	4	3	2	1
6.	一言					

《 参観者からの一言 》

- ・「解決策から提案までの流れが分かりやすく明峰生の努力が感じられた」
- ・「高校生が地域のことを真剣に考えた成果が見られ素晴らしかった」
- ・「自分にもできることの視点で考えられていた」

●1年間の探究活動を自分で振り返る(2年生)

- ・ワークシートを使って1年間の探究活動を振り返り自己評価を行う。
- ・自分ができたこと、意識したこと、今後身に付けたいことなどをまとめ、学んだことを3年の進路探究につなげる。

《 生徒の記述 》

- ・協働して取り組むことがとても大変でしたが、発表を終えて大きな達成感を感じられました。
- ・まちづくりを自分ごととして考える学びになった。大人になってもまちづくりに対する参画の姿勢をもちたい。
- ・難しかったけど、自分たちなりの探究ができたと思う。

第2学年 ESGワーク「1年間の振り返り」

①あなたが取り組んだ探究テーマ
日光の名産をもとに考えてもらおう

②探究を通して考えたこと、自分なりの気づき
日光のメロの売りと買手が分かれた。商品を売る方は想像しているより利益を大変だと思つた。年齢や学習によっていろいろ変わってくるから、どう考えるのが正しいか、自分たちで考えてみることにしよう。商品化したいと思つた。

③探究活動を通して自分の達成感
「持続可能な社会でどのような役割を果たせるのか自分の可能性を探る」
(5) 4 3 2 1

④探究活動を通して、解決のための提案や自己取組の考えを提案する力を高める。
(3) 4 3 2 1

⑤探究活動を通して自分の達成感、意識できたことを振り返り記入しよう。
達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑥達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

理由
新しい商品を開発に向けてたくさん考えたから、おれおれ団子とカレーを出せたから。

⑦今後、おれおれ団子とカレーについて、その理由を書きましよう。

項目
2/5

⑧今日の探究活動での学んだこと、自分の達成感や気づきについて具体的に書きましよう。

達成感
新しいことを考えたり、説明したりするのは、自分の達成感を感じた。自分の達成感を感じた。自分の達成感を感じた。

⑨達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑩達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑪達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑫達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑬達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑭達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑮達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑯達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑰達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑱達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑲達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

⑳達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

㉑達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

㉒達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

㉓達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

㉔達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

㉕達成感や項目から、最もできた達成感で最も得意なところを、その理由を簡単に書こう。

達成感
4 5 7 8 11 14 17 18 20 22 24

《 担当者の声 》 学習指導部長 千坂 篤史

探究活動を始めた当初は、生徒たちは、何事にも受け身で、課題に対して深く考えることなく簡単に答えを出そうとしていました。そのような中、各教員が「教える」のではなく、「伴走し導く」ことを意識しながら関わり続けることで、生徒が主体的に、より深い探究に挑戦するようになり、達成感や充実感を感じながら活動を進めることができたようです。今後も試行錯誤を繰り返しながら、生徒がワクワク感をもって取り組める探究活動を進め、資質・能力の育成の実現を図っていきたいと思います。